

[写真 2-2] 上城戸跡



[写真 2-3] 下城戸跡



[写真 2-4] 復原町並



[写真 2-5] 遺構展示地区



[写真 2-6] 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館



[写真 2-7] 一乗谷史跡公園センター

第2節 沿革と史料

第1項 近代までの一乗谷の沿革

(1) 朝倉氏の入国から滅亡まで

朝倉氏は但馬国朝倉庄(現兵庫県養父市)に大きな勢力を持っていた有力武士で、その地を名の由来とする。南北朝の内乱の最中に、越前守護斯波氏の重臣として但馬から越前に入国し、現福井市一乗地区から宇坂地区にわたる中世の荘園宇坂荘や、その西隣の東郷荘の地頭として当地を支配し、一乗谷を支配の拠点としていった。

戦国大名朝倉氏の初代当主とされる朝倉孝景は、応仁の乱の最中下国して文明3年(1471)5月に幕府から越前の守護職に関する要望を認められ、国内支配を固めたとされる。孝景が生まれた直後の永享3年(1431)、創建場所や寺地の移動は詳らかではないが、南陽寺に関する記事(P.107参照)が早くも認められる。また、文明11年(1479)には一条兼良を南陽寺に迎えており、南陽寺が客人を迎える場所に位置付けられていたことが窺われる。

続く2代当主氏景の代には、隣国の美濃や京都の幕府と密接な関係を結んだ。一乗谷で発生した 大火で重臣が焼死したとする記録(P.109、巻末表5参照 文明14年(1482))があることから、氏 景の代には重臣の城下集住が進んでいたことが窺える。

3代当主貞景は、近江・尾張・美濃等の有力守護と並んで、室町幕府の秩序のもとでこれらの地域 支配に重要な役割を果たした。一乗谷の整備も進められ、心月寺や含蔵寺等の大寺院には奥州白川氏 や失脚した将軍足利義尹等の大部隊の一行が宿泊した。また、貞景は朝倉一族の女性が入った南陽寺 を修理し、さらに京中を描いた屛風をつくらせて城下町整備の参考としたと考えられており、一乗谷 は相当の隆盛を誇ったと想像される。

さらに 4 代当主孝景から 5 代当主義景の代に一乗谷は全盛期を迎えることとなる。人口は増加し、石仏や石塔の造立が盛んに行われた。孝景の代には、一気に御供衆、御相伴衆に加えられ、家格を向上させるとともに、相阿弥から君台観左右帳記を伝授されるなど、文化力を高めた時代と言える。続く義景の代には、曲水宴や足利将軍の御成、南陽寺の花見など、華やかな行事が行われた。一方で、天下統一を目指す織田信長と対立し、義景は度々出陣したが織田信長の攻勢により敗北し、天正元年(1573) 8 月に義景が自刃し、朝倉氏は滅んだ。

(2) 朝倉氏の滅亡後

義景敗死のあとをうけて、朝倉氏の重臣だった前波長俊が信長政権から越前守護代として認められ、一乗谷城主となった。その後、一乗谷は越前を席巻した一向一揆の軍事拠点のひとつとなったが、天正3年(1575)8月、再度出兵して一向一揆を殲滅した織田信長は、一乗谷から約10km離れた北庄城を北陸支配の拠点とし、これを柴田勝家に守らせた。

豊臣秀吉政権の最末期、越前で太閤検地が実施され、当主館の跡である「朝倉館跡」を中心とする 犬馬場・柳馬場の土居より内、英林塚から南陽寺跡に至る部分が、再興を図った心月寺に敷地・山林 として寄進された。ただ心月寺は後に転変して移転し、朝倉館跡にはその末寺で義景の菩提寺の松雲 院が建立された。江戸時代、一乗谷は城戸ノ内村という農村となり、田畑造成や用水の開削が行われ、 一部遺構が失われることがあったが、大半の遺構は地中に保存された。江戸時代に越前を支配した福 井藩主松平氏は、安波賀の春日神社や滝殿、松雲院を崇敬するとともに保護し、幕府や藩は国内の山 城や館跡の調査を命じ、享保5年(1720)には山城跡や平地部の朝倉館跡、上・下城戸跡などの詳 細な調査が実施された。

その後、大正 10 年(1921)には福井県が史蹟名勝地調査保存事業を実施し、「一乗谷城址」として詳細な報告がなされた。

[表 2-2] 近代までの一乗谷の沿革(略年表)

和暦	西暦	記事				
延元2	1337	朝倉広景、但馬より越前に入国する。				
延文2	1357	朝倉高景、足利尊氏より東寺合戦の勲功の賞として足羽庄預所職を宛行われるという。				
貞治 5	1366	足利義詮、朝倉高景〈遠江守・宗祐〉に宇坂庄・棗庄・東郷庄・坂南本郷・河南下郷・木部島・中野郷等の地頭職を勲功の 賞として宛がう。				
正長元	1428	朝倉孝景(英林・後の一乗谷初代)生まれる。				
永享3	1431	南陽寺比丘尼、鳴滝殿領安原庄代官職を再び安堵される。				
嘉吉元	1441	朝倉賴景、足利義政より結城合戦の恩賞として和田荘と電光剣を与えられる。				
宝徳元	1449	朝倉氏景(子春・後の一乗谷2代)生まれる。				
長禄 3	1459	阿波賀城戸口で合戦が行われ、春日社や集落が焼かれる。その後朝倉孝景が下国して和田の合戦で大勝し主導権を獲得する。				
応仁元	1467	京都で応仁の乱が起こる。朝倉孝景は西軍として奮戦する。				
2	1468	朝倉孝景が越前へ下る。以後歴代在国する。				
文明 3	1471	朝倉孝景が幕府から越前守護職に関する望みを認められて国内に歴戦する。				
7	1475	朝倉氏が大野郡を平定して斯波義敏を京都に追い出し、越前一国を支配する。				
11	1479	一条兼良が越前に下向し、朝倉孝景の歓待を受ける。				
13	1481	朝倉孝景が没し、嫡子氏景が幕府から認められて跡を継ぐ。				
14	1482	失火により一乗大火。重臣らが焼死するが、斯波氏屋形と朝倉氏景は無事という。				
15	1483	朝倉氏景が幕府から越前守護代として認められ、遠江守護代は甲斐氏、尾張守護代は織田氏とされる。				
18	1486	朝倉氏景が没し、嫡子貞景が継ぐ。				
長享元	1487	敦賀郡司朝倉景冬が近江に出陣する。以後朝倉氏は幕府の命により出兵を命じられ、一族が出陣する。				
延徳 3	1491	朝倉貞景が美濃斎藤妙純の娘を妻に迎える。以後美濃との関係を深める。				
明応4	1495	奥州から上洛した白河政朝一行が心月寺に宿泊する。				
7	1498	足利義尹が朝倉貞景を頼って一乗谷に入り、含蔵寺に滞在する。				
永正3	1506	北陸一向一揆が越前に侵攻し、朝倉氏は九頭龍川で撃退する。朝倉貞景が土佐光信に京中を描く屛風一双を作らせる。				
6	1509	朝倉貞景が南陽寺に入った娘のために京都から月舟寿桂を招く。朝倉貞景は南陽寺の仏殿・方丈を再興する。				
9	1512	朝倉貞景が急死し、子の孝景が継ぐ。				
13	1516	朝倉孝景、大内義興の推挙により白傘袋・毛氈鞍覆の使用を許される。				
大永3	1523	相阿弥から朝倉宗俊(一乗谷4代孝景)に『君台観左右帳記』が伝授される。				
8	1528	朝倉孝景、御供衆に加えられる。				
天文 7	1538	朝倉孝景、足利義晴より幕府御相供衆に加えられる。				
12	1543	朝倉孝景がその新造亭で清原枝賢等をもてなす。				
17	1548	朝倉孝景が波著寺参詣の帰りに急死し、長男の延景(義景)が継ぐ。				
永禄 5	1562	朝倉義景が一乗脇坂尾に曲水宴を催して大覚寺義俊らをもてなす。				
7	1564	朝倉義景館の表と奥が古文書に見え、義景が平泉寺の顕海大僧都を奥に召す。				
10	1567	足利義秋(義昭)が敦賀から一乗谷に入り、安養寺の御所に滞在する。				
11	1568	朝倉義景は足利義秋(義昭)を南陽寺に招き糸桜を観る。義昭が朝倉義景館で元服する。				
元亀元	1570	織田信長が敦賀に進攻し、退却する。以後信長と4年にわたって対陣する。				
天正元	1573	朝倉義景が刀根坂の戦いで大敗し、一乗谷に帰り、大野で自刃する。織田信長の軍勢が一乗谷を放火する。次いで桂田(前波)長俊が越前守護代に任じられ、朝倉義景館の跡に入る。				
2	1574	一揆勢に攻められて一乗谷が陥落し、桂田(前波)長俊等が敗死する。本願寺・一向一揆が越前を支配する。				
3	1575	織田信長が再び越前に進攻して一向一揆を殲滅する。柴田勝家を北庄に置き、「越前国掟」を書き与えて支配させる。				
6	1578	このころまでに北庄城下に一乗町ができる。				
慶長3	1598	越前に太閤検地が実施され、一乗谷の義景屋敷と犬馬場柳馬場土居内や英林塚から南陽寺跡に至る土地が心月寺に寄進される。				
享保 5	1720	『越前国古城跡并館屋敷蹟』において「屋形跡 東西九十五間 南北八十間計 城台ヨリ酉戌方当 三十弐町計 此所松雲 院境内」との記載。				

第2項 一乗谷の調査及び整備の沿革

昭和5年(1930)の史蹟及名勝一乗谷朝倉氏館阯附南陽寺阯の国指定が、文化財保護制度における一乗谷の保存の始まりと言える。その後、昭和42年(1967)には足羽町(現・福井市)が事業主体となり、3庭園(湯殿跡庭園、諏訪館跡庭園、南陽寺跡庭園)を対象とした発掘調査を伴う環境整備事業を進め、翌年には朝倉館跡の発掘調査事業を開始した。これらの調査を通じて、戦国大名の当主館の全体像を知る貴重な成果が得られ、遺構露出展示の手法を用いた整備を足羽町及び福井県が実施した。その後、湯殿跡庭園及び諏訪館跡庭園における園池への導水経路を検出し、南陽寺跡境内地全体の調査を福井県が進め、南陽寺跡庭園も他の庭園と同じく、朝倉氏による一体の庭園であることが明らかとなった。以上の発掘調査をうけ、平成3年(1991)には名勝一乗谷朝倉氏庭園附南陽寺跡庭園が特別名勝一乗谷朝倉氏庭園へ名称を改め、格上げ指定された。

平成 16 年 (2004)、甚大な被害をもたらした「平成 16 年 7 月福井豪雨」に伴う災害復旧工事を福井県が実施し、平成 20 年 (2008) からは福井市が朝倉館跡庭園の園池背後の斜面崩落に伴う復旧工事を実施した。同 24 年 (2012) からは既整備地の劣化へ対応するための調査・研究事業を福井県が開始し、また、三次元レーザー計測等により、現況の記録化及び非破壊調査を実施した。

[表 2-3] 調査及び整備事業の沿革(略年表)

和暦	西暦	一乗谷	朝倉館跡庭園	湯殿跡庭園	諏訪館跡庭園	南陽寺跡庭園	備考	
イロノロ	四周	木口				用物寸奶炖图	加力	
昭和 5	1930							
32	1957			森蘊氏・村岡正氏による平面実測図の作成			奈良文化財研究所所蔵図面	
42	1967	足羽町が主体となり発 掘調査開始 追加指定及び名称変更		環境整備			史蹟及び名勝一乗谷朝倉氏館跡附南 陽寺跡を史跡と名勝に分離	
43 ~ 49	$1968 \sim 1974$		発掘調査・整備					
62	1987			発掘調査	発掘調査		第 60 次調査(導水路跡検出) ※諏訪館跡庭園にて下層石垣を検出	
平成元	1989		発掘調査・整備			発掘調査	第 64・65 次調査、第 67 次調査(南陽寺跡、朝倉館外濠跡) 整備内容:外濠復原整備	
2	1990		整備 (外郭修景)		整備 (園路整備)	整備 (平面表示等)		
3	1991	特別名勝指定		整備	整備		整備內容:導水路跡整備【県単費用】	
15	2003		景石修繕(枯山水様平庭の 亀石(北側巨石)の剥離箇 所をエポキシ系樹脂アラル ダイトにて接着)	景石修繕(鶴石組 (庭園南西部)の中 心石の雑木除去な らびに割れた箇所 の同剤による接着)				
16	2004		災害復旧(東側斜面、義景 墓所裏斜面崩落・園路)	災害復旧 (観音山斜面)	整備(昇降階段 修繕)	災害復旧	福井豪雨災害復旧	
17	2005		災害復旧 (山裾法面等・北濠跡)				- 惟开家附火吉愎旧	
20	2008		復旧 (庭園斜面崩落に伴う工事)				内容:法面排水ボーリング	
21	2009		発掘調査・復旧 (庭園斜面崩落に伴う工事)				内容: 貯水池修繕、排水路新設、園 路整備	
22	2010		4-1-				内容:斜面木杭設置及び版築、護岸 石修繕、排水シート設置	
23	2011		復旧 (庭園斜面崩落に伴う工事)				内容:斜面版築、護岸石修繕、排水 シート設置、飛石修繕、つづら折れ 水路修繕、広場整備	
24~	2012~		劣化対応事業開始 (気象観測・モニタリング等)					
25	2013				試掘調査・修		石垣及び導水路毀損に伴う調査・修	
26	2014				繕(導水路)		繕	
27	2015		三次元レーザー計測		三次元レー ザー計測・地 中レーダ探査			
28	2016		地中レーダ探査	三次元レーザー 計測・地中レー ダ探査		地中レーダ探査		

第3項 史料等

(1) 絵図

一乗谷に関する古絵図として確認されている史料としては、江戸時代の弘化 4 年(1847)以降に描かれたと考えられる「一乗谷古絵図」が最も古いもので、当時の庭園に関する情報を伝えている。中央右寄りに、朝倉氏の菩提寺心月寺末寺「松雲院」があるが、この場所が現在の朝倉館跡にあたる。



[図 2-9] 「一乗谷古絵図」江戸時代(推定) 春日神社所蔵 作者不明



[図 2-10] 「一乗谷古絵図(部分拡大)」江戸時代(推定) 春日神社所蔵に注記を加筆(参照元:資料館図録)

(2) 図面類

各庭園とも昭和から平成にかけて福井県や研究機関等が図面を製作し、図面数は朝倉館跡庭園が 57 種類、湯殿跡庭園が 10 種類、諏訪館跡庭園が 16 種類、南陽寺跡庭園が 6 種類である。(巻末資料 図面類一覧表参照)

本庭園はいずれも発掘調査により、全体像もしくは存在が明らかとなっており、朝倉館跡庭園は発掘調査後の測量図が基礎資料となる。湯殿跡庭園と諏訪館跡庭園については、発掘調査及び整備後の庭園実測図があり、南陽寺跡庭園は、発掘調査前の庭園平面図が存在するのみである。 次より、各庭園について、発掘調査後もしくは整備後の図面を抜粋して掲載する。